

【抄録】

題名：キュウリつる枯病に対する各種薬剤の防除効果

著者：星野啓佑・新井美優・吉澤仁志

群馬県農業技術センター

雑誌名：関東東山病害虫研究会報 第71集 (2024) p. 25-27

要旨

キュウリの主枝に発生するつる枯病に対する11薬剤の防除効果を葉柄接種法で評価した。その結果、各薬剤間で防除効果に差が認められ、トリフミゾール水和剤、イソフェタミド水和剤、イプロジオン水和剤、メパニピリム水和剤およびイブフルフェノキン水和剤は高い防除効果を示すことが明らかとなった。一方、多作用点接触活性を示すマンゼブ水和剤およびTPN水和剤は発病を軽減する傾向がみられたがその程度は低いことから、防除効果は低く、不安定であった。